夢　現

山﨑光雄

「夢現」は2007年にギャラリー麦さんで個展を開いたときのタイトルです。“Dreams come true”（夢は現実になる）からの用語ですが、私はこの言葉の示すことをまさに体験した一人かもしれません。

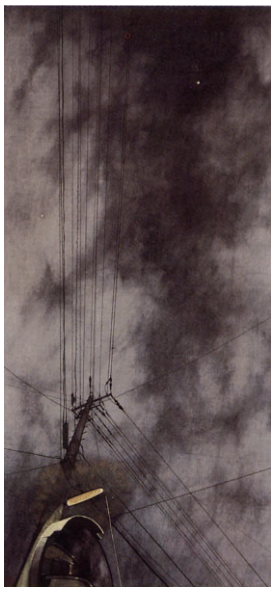
私は、入間川中学校で美術の教師をしながら絵を描いています。若い頃から目指したわけではありません。子供の時大阪万国博覧会の写真を見て建築に興味を持ち、大学受験では建築科を第一志望に受験、結果は第２志望の教育学部美術科に入学しました。そのため大学ではかなり真剣に美術を学びました。日本画は伊藤 彬先生（元創画会会員）から学びました。自由に描かせてくれながらも「表現する心」を教えてくれました。大学を卒業する時、「教師をやりながら日本画を描き、30歳までにはメジャーな展覧会に入選したい」という夢（目標）を持ちました。

教師になり仕事を始めると現実は甘くなく、先輩の先生について行くだけで精いっぱいでした。教科指導、生徒指導、部活指導で時間は費やされました。筆を持つ時間がなくなりました。数年たつと授業で生徒と一緒に水彩を描く程度になっていました。「夢」は「思い出」になってしまいました。

「拓く」　創画展　初出品

教師18年目の秋、出張帰りに埼玉県立近代美術館に立ち寄り伊藤先生の絵に出合いました。墨だけで描いた絵でしたがすごい表現力でした。 この絵に触発され「自分も墨を主に描いてみよう」と思いました。また、先生の絵に出合って数カ月後、テレビをつけたら先生の制作風景を紹介した番組が映しだされました。何の因果でしょうか。食い入るように観てしまいました。また筆を持ち始めたのはこの時からです。

翌年の春、県展に再入選しました。その後も仕事をしながら数回県展に入選しました。生徒が下校した夜や休日の部活指導の後、美術室で絵を描くようにしました。そしていつにか「このままでは、絵を描く気持ちが萎えてしまう。若い頃の夢に挑戦しよう」と思い始めました。教師22年目の夏、夢の創画展に初出品しました。パネルを作り紙を貼って画面に向かうと、若い頃の記憶がよみがえりワクワクしました。結果は選外でした。その後も選外が続きましたが教師24年目、春の院展に初入選 —— 夢が現れました！



「見上げてごらん」
春の院展　初入選

同年秋に院展初入選、翌年は日展に新入選しました。今日まで落選や入選を繰り返しています（落選の方が多い）。昨年は７年ぶりに２回目の日展入選、創画展初入選しました。今年は３大展すべて落選しました（笑）。こんなバカな挑戦をしているのは、日本中で私だけでしょう。来年はぜひとも入選させたいと思っています。

（埼玉県美術家協会会員・狭山市美術家協会会員・狭山市文化団体連合会理事）

編集後記

文化祭も終り、ほっと一息。私を含め高齢者が多く、元気で頼もしいが、もっと若い人達に後を託したいもの。晩秋の奥富歩きは、柿の実と、遠く富士山の雄姿に心洗われる半日でした。

（髙沢正夫）